

はりの種 Re-NK 通信



別府市100人カイギにて

8/25に行われた「別府100人カイギ」に登壇してきました。別府100人カイギとは、地域で活躍する100人の話を起点にクロスジャンルでつながりを生むプロジェクトで、毎回5名登壇し、100名に達したら解散するという全国各地で広がりを見せるイベントです。私は、自らの自己紹介と作業療法についての話をさせて頂きました。沢山の方が興味を持って下さり、私自身もとても楽しい会となりました。中々頂ける機会ではないので、100人の中に入って話をさせて頂けたという大変貴重な経験をさせて頂きました。様々なジャンルの方と交流する機会もあり、非常に充実した時間でした。

“日出町介護ネットワーク会議”で作業療法の話させて頂きました

日出町地域包括支援センターさんからお声掛け頂き、日出町介護ネットワーク会議にて「作業療法の理解を深めよう」というテーマで60分の時間を頂いてお話をさせて頂きました。多職種向けに講義形式で行うのはとても不慣れで、非常に聞き苦しかったと思いますが、皆さん最後まで真剣に聞いて下さりました。よく作業療法と理学療法の違いって何？と聞かれる事が多く、少しでも作業療法の魅力が伝わればと思い、事例を交えてお話させて頂きました。今後もっとフラッシュアップして、このようにお話する機会を頂けるように頑張っていきたいと思っております。



リハビリコラム

思いをカタチに、カタチが思いに繋がるように

Aさんは、脳内出血により右片麻痺を呈し、今まで当たり前のように出来ていた事ができず、退院後も悔しい思いをされてきました。Aさんにとって、やりたい作業や、やらなければいけない作業がどんな事なのか、それらを達成する為にどうしていくか等、一緒に考え共有しながらリハビリを行ってきました。その中でも、料理をしたいという思いが聞かれ、調理訓練を開始しました。

退院後初めて作ったキュウリの昆布和えは、Aさんやご家族にとっても大変大きな意味を持ちます。

作業療法の学問として作業科学と呼ばれるものがあり、その中で“作業の意味”には8つの視点があります(詳しくはまたいずれ広報誌に掲載します)。その中でも「社会の中での意味」という視点があり、Aさんにとっては妻としての役割だったり、料理ができる事によって



社会的な不正感から脱却する等の意味が生じます。まだ立位を安定してとる事や、耐久性、動作の効率性等々、今後も訓練が必要ですが、“作業の意味”を考える事で、より目標に対する動機付けが色濃く反映されます。ご本人やご主人にも喜んでもらえるように、思いをカタチにし、カタチが思いに繋がるようにしていきたいと思っております。

まずはお気軽にご連絡ください

☎ 090-5087-3813

人と人、人とまち、人と作業を繋げる。

別府市リハビリリンク

🔍 検索

